

明治時代の熊本を知る、ガイドブック



明治 の 熊本



太平の眠りから覚めた 熊本の若者達は世界へ想いをはせた! 熊本の維新は明治3年から始まった。

※徳富蘆花著「竹崎順子」1923

慶応3(1867)年10月。歴史を大きく動かした「大政奉還」。

武士の時代は終わりをづけ、新政府によって新たな時代が幕を開けました。そして、150年前の慶応4(1868)年9月、日本は明治に改元し、近代国家への歩みを踏み出します。

江戸幕府の治世は終わりを告げましたが、幕末の争乱はまだ続き、新しい時代と古き時代の葛藤がありました。そんな中、熊本は明治3(1870)年になって、やっと新しい時代の波に乗り出しました。

矢継ぎ早に新しい施策が打ち出されます。重要視されたのは人づくりでした。私たちの先人は「まちづくりは人づくりから」と、全国に先駆けて「熊本洋学校」「古城医学校」などを作り、その後の日本に影響を与える人材を多く輩出しました。

大きく動く時代の波。政府の進める急激な近代化・中央集権化に、不満を抱く人もでてきました。古き武士の伝統を重んじる人々により、各地で反乱がおきました。熊本でも「**風連の変**」が起き、明治10(1877)年には、薩摩の西郷隆盛さいごうたかもりを首領にした国内最後の内戦「西南戦争」の火蓋が切られました。熊本県内が広範囲にわたり戦乱の地となりました。熊本市は激しい戦火により焼け野原と化し、県内各地に傷跡を残しました。

それでも熊本は明るい未来に向けて、目覚ましい復興を遂げます。名もなき人々も家屋を再建し商売を再開、また国も多くの機関を熊本に設立し、九州一の大都会へと変貌していきます。中学校令により全国5か所に高等中学校が設置されます。仙台、金沢に次いで、明治20(1887)年には、九州で初めて熊本に第五高等中学校(のちの第五高等学校)が設立。教師生徒ともに多くの優秀な人材が熊本に集まり、熊本に大きな足跡を遺しました。

熊本の明治時代は激動の幕開けを経て、大きく発展してきました。その基となったのは新しい時代の荒波に勇気をもって乗り出した若者等、先人達の熱い思いのおかげかもしれません。そんな、今の熊本の礎を築いた、「明治の熊本」を振り返っていきます。



富重写真所 明治4~5年頃撮影 焼失前の熊本城

明治の熊本の歩み(1868年~1912年)

幕末から 明治8(1875)年	江戸時代の蓄積が明治に花開く 維新の夜明け前~横井小楠の活躍~ 熊本の維新	2 6
明治9(1876)年~ 明治10(1877)年	加速していく時代の流れ 激動のくまもと 近代日本、最大にして、最後の内戦	8 10
明治10(1877)年~	急ピッチで動き出した復興 復興は人づくりから 教育に熊本の未来を託す 経済の維新は鉄道によってもたらされた 熊本の明治遺産	15 18 21
明治150年イベント情報		25
「明治の熊本」関連スポットマップ		26
熊本明治150年記念フォトラリー		28



維新の夜明け前～横井

江戸時代に培われた教育「時習館」

江戸時代の半ば、宝暦5(1755)年に藩主細川重賢^{ほそかわしげ かつ}によって作られた藩校「時習館」は、学費が無料で、藩士の子弟のみならず、成績優秀であれば庶民も入学が許された学校です。全国から優秀な生徒が集まり、卒業生は明治政府にも多く登用^{ちゅうよう}されました。



時習館跡(熊本城 二の丸広場)

学問を实用に

横井小楠^{よこい しょうなん}は、文化6(1809)年、熊本城下の内坪井に下級武士の子として生まれました。8歳で藩校時習館に入学(10歳という説もあり)。エリート集団の中で頭角を現し、他の生徒を指導^{しきう}する居寮生^{きりょうせい}から居寮長^{きりょうちやう}になります。藩から江戸留学を命じられるなど、このまま行けば出世街道間違いなしのはずでした。しかし小楠は学問のあり方に疑問を持ちます。時習館での学びは、意味調べや暗記に留まるだけ。学んだことを生かさなければ学問を究めたことにはならないのではないかと。経世済民(世を治め、民の苦しみを救うこと)の道こそ本領。いわゆる「実学」のススメでした。こうした考えは時習館出身者が占める藩の主流派から睨まれることとなります。

※1 特待生のようなもの ※2 塾長

光が見えたつかのみ、土道忘却事件発生

江戸留学から戻った小楠は、天保14(1843)年、自宅で私塾(後の小楠堂)を開きます。入門第一号は徳富一敬^{とくみ かずたか}(徳富蘇峰、蘆花の父)でした。小楠の名声は越前福井藩(福井県)にも聞こえ、藩主 松平春嶽に招かれ、藩校改革や財政立て直しに手腕を発揮します。「横井実学」に舞台が与えられました。松平春嶽の厚い信頼を得た小楠は、春嶽が幕府の政事



福井県にある横井小楠像(右)、左は三岡八郎(由利公正)

小楠の活躍～

総裁職に就任すると、その相談相手となりました。日本のプレーンになったのです。しかし、文久2(1862)年12月、酒宴中に暴漢に襲われた際、小楠は無刀だったため、とっさに刀を取りにいった行動が敵前逃亡とみなされ、武士にあるまじき行為として土籍剥奪、蟄居処分^{ちつきょ}となります。[土道忘却事件]とよばれた事件です。

坂本龍馬の来訪

小楠は熊本市沼山津^{ぬやまづ しじけん}にある四時軒^{しじけん}で蟄居の身を過ごします。勝海舟^{かつ かいゆう}の弟子であった坂本龍馬^{さかもとりょうま}は3度、四時軒を訪れています。龍馬が、勝海舟



四時軒(平成28年熊本地震以前)

から託された手紙や金品を小楠に渡したと記録が残っています。

新しい政府が出来るとき、先生(小楠)の出番はきまらずから、その時会いましょう。



坂本龍馬

志半ば。凶刃に倒れる

慶応3(1867)年。徳川300年はついに瓦解します、倒幕の要因となった「薩長同盟」の仲介役であった坂本龍馬は密約の計画を秘めて薩摩へ向かいました。そしてその帰路に四時軒を訪ねています。これが、二人の最後の会談となりました。

新政府は小楠を新政権の舵取り役として参与として迎え入れます。そして明治2(1869)年1月5日、出仕した帰り道に刺客に襲われ、志半ばで維新の舞台から去りました。小楠61歳の時でした。



襲われた際に小楠が応戦した小刀

関連スポット

時習館跡
(熊本城二の丸広場)



6代熊本藩主 細川重賢によって設立された藩校「時習館」は今の熊本城二の丸広場に置かれていました。藩の将来を担う人材育成のために、身分の上下に関わらず家老の許可があれば誰でも入学できた学校でした。文武両道をうたい、多くの優秀な人達が集いました。熊本地震によって、熊本城の多くのエリアが立入制限中ですが、二の丸広場はたくさんの人で賑わっています。

■熊本市中央区二の丸2-1

横井小楠と維新群像
(高橋公園)



横井小楠と、彼と親交のあった坂本龍馬、勝海舟、松平春嶽、細川護久(ほそかわもりひさ)の5人の銅像が維新の群像として建てられています。熊本城が望める広場で、憩いの場として親しまれています。台座の部分には、実学派の改革を実現した6人のレリーフがはめ込まれています。

■熊本市中央区千葉城町1

四時軒(横井小楠記念館)

※現在休館中、12月から記念館のみ開館予定



横井小楠の旧居。小楠は家塾「四時軒」を開き、多くの門弟を養成しました。坂本龍馬や「大日本帝国憲法」の草案をつくった井上毅(いのうえこわし)らも訪れています。隣には横井小楠記念館があり、小楠に関する資料や小楠にゆかりのある人々の書などが展示されています。

※四時軒は熊本地震で全壊したため、復旧工事予定。詳細は、熊本市文化振興課まで。

■熊本市東区沼山津1-25-91

☎熊本市文化振興課 096-328-2039

小楠公園



横井小楠の遺髪が埋葬されています。遺髪は、暗殺のとき刺客が小楠の首を取り持ち帰ろうとしたのを警護の者が取り返し、門人の岩倉俊貞(いわくらとしさだ)が熊本に持ち帰ったという逸話が残っています。袴姿に刀を携えた横井小楠の銅像が建っていて、毎年2月15日には墓前祭が行われています。

■熊本市東区沼山津4-11

関連スポット

豊後街道「内牧温泉」



勝海舟や坂本龍馬が大分・佐賀関から長崎へと九州を横断した際に立ち寄ったとされる温泉地。勝海舟の日記に記録が残ります。現在も旅館やホテルが軒を連ね、観光地としても人気のスポットです。

■阿蘇市内牧

湯の鶴温泉



幕末には坂本龍馬が立ち寄り、西南戦争の際には、政府軍も入浴したという歴史が残る温泉。湯の鶴温泉で最も歴史がある温泉旅館「四浦屋本店(ようらやほんてん)」が大改修し、「Tojiya」として平成29(2017)年11月にリニューアルオープンしています。

■熊本県水俣市湯出

小話

明治維新を描いた男、鬼才 横井小楠

黒船来航。太平の眠りを覚められた島国日本で、幕末動乱の時代、右往左往する世情で世界を見据えた男がいました。彼がいなければ、明治の夜明けは違った形になったかも知れません。



大義を四海に
布かんのみ*

※慶応2(1866)年、
米国へ留学する甥の
送別に通った詞の一説

横井小楠

横井小楠にまつわる主な出来事

文化 6年	1809	横井小楠誕生
文化 13年	1816	横井小楠、時習館入学(小楠8歳) ※一説では文化15(1818)年に10歳で入学したともいわれています。
天保 10年	1839	江戸留学へ(小楠31歳)
天保 14年	1843	私塾「小楠堂」開塾
安政 2年	1855	沼山津へ移り住み、 自宅を※「四時軒」と名付ける ※四季の眺めを楽しめることからその名がつけられました。
安政 5年	1858	越前藩主松平春嶽に招かれ、福井へ
文久 2年	1862	士道忘却事件
明治 元年	1868	横井小楠が明治政府の参与となる
明治 2年	1869	京都にて暗殺される(小楠61歳)

※こちらの年齢は「数え年」で表記しています。

世に恐れる人物が
2人いる。
1人が西郷隆盛、
もう1人が
横井小楠である。



勝海舟

熊本の維新

受け継がれる意思

小楠が暗殺された明治2(1869)年、版籍奉還によって細川藩は熊本藩と改められました。翌年、細川護久が二代目藩知事に就任すると、小楠の流れを汲む弟護美とともに本税の軽減、雑税の廃止、禄制の改革や時習館の廃止など大々的な藩政改革が断行されました。熊本城も近代化にふさわしくないと取り崩すプランもあったほどの急進的なものでした。

実行の中心になったのは、小楠門下の竹崎律次郎、嘉悦氏房、徳富一敬(徳富蘇峰、蘆花兄弟の父)らでした。なかなか熊本では受け入れられなかった小楠の「実学」がようやく受け入れられはじめたのです。蘆花は叔母の伝記「竹崎順子」で「肥後の維新は明治三年に來た」と書いたのはそういう意味でした。



徳富蘆花著「竹崎順子」1923

教育で近代化を図る、教育改革

明治維新後、教育で近代化を図ろうとした熊本藩はその一貫として、江戸時代に家老屋敷があった熊本城の一部(古いお城があった古城と呼ばれる場所)に「古城医学校」と「熊本洋学校」を開校します。

古城医学校にはオランダ人軍医マンスフェルトが招かれ、明治4(1871)年に開校しました。卒業生には、日本細菌学の父「北里柴三郎」や日本産婦人科学の始祖「浜田玄達」、東京帝国大学医科大学の衛生学初代教授「緒方正規」などがいます。マンスフェルトが熊本で教鞭をとったのはわずか3年の間でしたが、古城医学校からは日本の医学を背負うことになる多くの人材が巣立ちました。

同じく明治4(1871)年、アメリカの退役軍人であるL・L・ジェーンズが招聘され、官費の学校として「熊本洋学校」が開校しました。授業は英語、数学、地理、歴史、物理、化学、天文、地質、生物があり、すべて英語で行われました。明治7(1874)年には日本で初めて男女共学を行い、徳富初子(蘇峰・蘆花の姉)・横井みや子(小楠の娘)などが入学しました。

ジェーンズは、西洋野菜の種を輸入し、栽培方法を教えたり、牛乳や牛肉を食させて壊血病を治すなど、西洋の良さを伝えました。明治9(1876)年に熊本洋学校が閉鎖になるまで、ジェーンズは、多くの文化と知識、技術などを熊本にもたらし、熊本の発展に大きな影響を与えてくれました。

関連スポット

熊本洋学校教師館ジェーンズ邸

※写真は平成28年熊本地震以前のものです。※現在建物はありません。

この建物で5年間暮らしました。



ジェーンズ

熊本洋学校にジェーンズを迎えるため明治4(1871)年に建てられた洋館。ジェーンズは明治4年から明治9(1876)年までの5年間でこの建物(当時ジェーンズ邸は現在の古城町にありました)で暮らしました。平成28年熊本地震によって



ジェーンズ邸外観



ジェーンズ邸内観

建物は崩壊。現在は復旧に向けて調査、検討会が為されています。ここは、明治10(1877)年の西南戦争の際、博愛社(日本赤十字社)の設立許可を受けた場所でもあります。

北里柴三郎記念館



北里柴三郎博士の生家や、北里氏から小国町に寄贈された北里文庫(図書館)を改修し、偉業を称える施設。敷地内には生家の一部や、和風木造2階建ての貴賓館があり、その2階から望むわいた山は一眼の価値があります。

■小国町北里3199



北里柴三郎



日本の細菌学の父

「破傷風」とは、破傷風菌によって発生し、感染すると全身の硬直や呼吸困難に陥り、最悪の場合には死に至る恐ろしい病気です。破傷風菌は土の中にいて、主に傷口などから体内に入り感染します。北里氏は、明治22(1889)年に世界初の「破傷風菌純粋培養法」に成功し、明治23(1890)年に「破傷風菌の抗毒素」を発見しました。そして、血清療法を確立し、破傷風感染症の治療に貢献しました。

激動のくまもと

キリスト教への入信

様々な西洋の学問を教えてくれたジェーンズ。赴任してから3年ほど過ぎた明治7(1874)年頃からジェーンズ邸に有志を集めて聖書研究会を始めます。キリスト教を知った学生たちは、回を重ねるごとに関心を高め、生徒はしだいに増えていきます。それと同時に、キリスト教に反発する生徒も結束していきました。

そして、明治9(1876)年1月30日の早朝、生徒達は花岡山に登り、祈祷会「天拝会」を開き、キリスト教をもって祖国を救うという主旨の奉教趣旨書に署名誓約しました。「花岡山の誓い(バンド)」です。誓約には35名の者が署名しました。その中には、徳富猪一郎(蘇峰)の名もありました。

キリスト教禁制の高札が撤去された直後とはいえ、この出来事に驚いた当局は、その年、ジェーンズの招聘期限が切れると同時に洋学校を廃校としました。日本を離れる前に、ジェーンズは奉教を表明した生徒たちをアメリカン・ボードの宣教師に依頼して、新島襄が創立した同志社英学校(京都)へ転校できるように下地を作ります。

同志社へ入学した生徒達は本格的にキリスト教を学びました。宣教師から熊本グループの意味で「熊本バンド(同盟)」と呼ばれたのがこの名の始まりで、「横浜バンド」や「札幌バンド」とともに、日本三大バンドとされ、日本プロテスタントの源流の一つに数えられています。

※キリスト教海外伝道団体



現在も花岡山山頂では、「熊本バンド」の結成を記念する早天祈祷会が毎年1月30日に行われている。(写真：熊本YMCA提供)

激動の幕開け「神風連の変」

明治9(1876)年、明治維新後、急速に欧米化する政府と、日本古来の伝統や文化の崩壊を憂慮した「敬神党」によって、「神風連の変」が起こりました。「神風連」は熊本市南区内田町にある新開大神宮の宮司・旧熊本藩の士族であった太田黒伴雄を首領とする志士の集まりで、神道と尊皇を重んじ、自らを「敬神党」と呼んでいました。加屋霽堅ら約170名によって結成された「敬神党」は、廃刀令などに反対し、熊本鎮台を襲撃します。それがのちに「神風連の変」といわれる事件です。この事件に呼応するように秋月の乱、萩の乱等、各地で士族の反乱が発生し、翌年の西南戦争へとつながっていきます。

関連スポット

花岡山



熊本市街地を一望できる展望スポット。熊本バンドのゆかりの地。この場所に、ジェーンズの教え子であった、徳富蘇峰や海老名弾正(えびなだんじょう)ら生徒35人が集まり、キリスト教信仰を誓いました。「熊本バンド・奉教の碑」が建てられています。

■熊本市西区春日4丁目45

新開大神宮



室町時代に創建され、加藤清正(かとうきよまさ)が再興し、細川家の保護を受けて幕末に至りました。明治維新を迎え、宮司であった太田黒伴雄を中心に敬神党が結成されました。日本古来の伝統や文化を守るべく「神風連の変」が起こります。

■熊本市南区内田町1266

神風連資料館(桜山神社境内)



「神風連の変」で敗れた志士たちの霊が眠る桜山神社の境内にある資料館。信仰を重んじ、王政復古による日本古来の神道に基づいた政治を目指そうとした「神風連」の重要な資料や貴重な遺物が展示されています。

■熊本市中央区黒髪5-7-57



神風連が守りたかったもの

これまで「刀」で「国を護る」ことが勤めだった武士が、廃刀令によって「刀」を捨て、断髪令によって武士を辞めろといわれることは、日本そのものを捨て去れといわれているようなものでした。日本の危機を感じた彼らは、日本らしさや武士の魂を守るべく旗をあげ、古来の刀槍の武器をもって近代火砲を装備した熊本鎮台に攻め込んでいきました。



太田黒伴雄

近代日本、最大にして、最後の内戦

西南戦争、開戦

新政府による急激な近代化や中央集権化で、これまで支配階層だった武士の特権が奪われていきます。新政府設立の立役者であった西郷隆盛は、明治政府の参議となり、陸軍大將も兼ねていました。明治6(1873)年、朝鮮への対応をめぐる征韓論争で意見が受け入れられなかったため、参議を辞職し、故郷である鹿児島へ帰りました。当時新政府を担っていた鹿児島出身の官僚や軍人約600人も同時に辞職し、西郷とともに鹿児島で私学校を設立しました。各地で士族の反乱が発生している中、新政府は大きな武力となりうる私学校生徒と強いカリスマ性をもつ西郷に対して警戒を強めます。それに不満と怒りを募らせる私学校生徒達。西郷隆盛暗殺計画の噂も流れ始め、これをきっかけに、私学校の生徒でもあった旧薩摩藩士たちは明治政府に対する挙兵を決意しました。そして、明治10(1877)年、西郷隆盛を首領にして、国内最後の内戦「西南戦争」が開戦しました。

熊本城攻防戦

明治10(1877)年2月15日、総勢1万3千人にもなる薩摩軍が鹿児島を出発します。一行は明治政府に対して抗議をする名目で東京に向かいました。東京へ向かうためには熊本を通る必要があります。そこで、熊本鎮台総司令官であった谷干城少将に、西郷隆盛の名で「薩摩軍らが熊本を通るので、通過できるようにしてほしい」と通達を届けます。しかし、熊本鎮台は、既に薩摩軍に抗戦するよう政府側の命令を受けていたため、その通達を拒否。熊本城にて戦闘が開始しました。



高橋公園に建つ谷干城像

当初、薩摩軍側では「熊本は抑えに徹し、主力は東上に進む」という案と「全軍をもって熊本城に一齐攻撃」という案で意見が分かれていましたが、最終的に「全軍をもって熊本城に一齐攻撃」案を採用。熊本城を包囲し、薩摩全軍で総攻撃に当たります。しかし、3日間攻撃をしても熊本城はビクともしません。すぐには落とせないことを察し、薩摩軍側は兵糧攻めの作戦に切り替えます。^{*}3,300人の兵士を賄う食料が先に尽きるのを待つことにしたの

です。薩摩軍は坪井川と白川をせき止め、城下を水攻めにするなど、熊本城下は壊滅的な状況となりました。

※熊本市田原坂西南戦争資料館「年刊 田原坂vol.4」より



熊本城での籠城

熊本城での籠城は52日間にも及び、籠城した3,300人が耐え抜きました。籠城戦は「捨て身の戦法」であり、籠城で勝ちを収めた戦はあまり例がありません。加藤清正が作った城は、まさに築城から270年経った西南戦争の時に、その本領を発揮しました。

自分は、清正公に
負けたようなものだ
西郷隆盛



西郷隆盛

田原坂の戦い

薩摩軍の一斉攻撃に耐えた政府軍側は次々と援軍の兵士を北から送ります。薩摩軍も対処せざるを得ませんでした。熊本城には兵士を約3,000人残し、残りは政府軍を迎え打つために北上します。

熊本城の北に位置する田原坂は唯一大きな大砲が通れる道でした。よって政府軍はどうしても田原坂を通る必要がありました。そのためこの地が西南戦争の激戦地となります。

西南戦争は大砲や小銃など、当時では近代的な武器を使用した戦いとなりましたが、この田原坂で発砲された弾丸は政府軍側だけで1日60万発に達したとも…。あまりに多くの弾丸が飛び交ったので、空中で弾丸同士がぶつかった「かちあい弾」と呼ばれるものが、田原坂付近から見つかっています。



政府軍・薩摩軍の武器・武装

政府軍には、兵士1人ひとりに洋服の制服が支給されていました。使用していた主な銃器は、スナイドル銃といわれる小銃で、エンフィールド銃を改良したものでした。手元で簡単に弾丸を込めることができ、雨にも強く、銃の先に剣をとりつけたまま発射することができました。薩摩兵の服装は着物や洋装など、各人個別の格好をしていました。熊本市田原坂西南戦争資料館では、実際に使われた銃など、間近に見ることができます。



県内中が戦地となった熊本

一見、西南戦争は薩摩軍と政府軍との闘いようですが、熊本や宮崎からも薩摩軍と呼応して立ち上がった土族隊がいました。熊本では時習館の学校党を中心に^{※1}1,300名が健軍神社から出陣、宮崎4兄弟の長男宮崎八郎率いる協同隊400名、その他人吉隊などが参加しました。県北から県南まで菊池、山鹿、阿蘇、御船、矢部(山都)、八代、人吉と熊本県内の多くが戦場となり、大きな戦災を受けました。

※1 新熊本市史 通史編 近代I

そして、開戦から7か月。政府軍死者約6,900人、薩摩軍死者約6,800人にのぼる最大の土族反乱はこうして終わりをむかえます。

※2 死者の数は記録・文献により様々です

関連スポット

熊本市田原坂西南戦争資料館



西南戦争を映像・音・振動・ジオラマで紹介。戦いの様子をリアルに再現した体感展示や、実際に使われた銃や弾、古文書等の貴重な資料の展示など、西南戦争に至る時代背景や意義について分かりやすく展示してあります。資料館がある田原坂公園には、激戦の跡が生々しい弾痕の残る家(復元)や慰霊塔が建っていて、現在はツツジや桜の名所としても知られています。

■熊本市北区植木町豊岡858-1



田原坂西南戦争資料館

雨は降る降る、
じんばはめれる、
こすにこされぬ、
田原坂…

熊本に伝わる民謡「田原坂」。その歌詞には、田原坂を必死で攻める政府軍が、さまざまな勢いの薩摩軍に押されてなかなか田原坂を越えられない様子が歌われています。



美少年像



田原坂公園 弾痕の家



田原坂公園

関連スポット

熊本城



日本三名城のひとつ。加藤清正が約7年の歳月をかけて築城しました。実戦を想定した巨大要塞として築城された城は、約270年経った西南戦争時にその力を発揮します。52日間にも及ぶ籠城に耐え、難攻不落の名城の真価を証明しました。現在は熊本地震の影響で本丸内部には入れませんが、二の丸広場や加藤神社などから天守閣や櫓等を見学することができます。(写真は2018年9月撮影)

■熊本市中央区本丸1-1



熊本城天守閣



熊本城戌亥櫓



熊本城西南戦争籠城将校家族避難跡



西南の役 回顧之碑

吉次峠



薩摩軍防衛戦線最後の牙城。薩摩軍が死守した吉次峠は、政府軍に「地獄峠」と恐れられた険しい場所でした。薩摩軍に参加した、熊本隊の一番隊長・佐々友房(さっさとともふさ)が、「君見ずや吉次の険は城よりも険なり」と詠った詩が刻まれた詩碑があります。 ■玉東町原倉2334-57

西郷南洲先生祖先発祥之地 (増永城跡地)



西郷隆盛ゆかりの場所。西郷の祖先、菊池氏初代則隆(のりたか)の子である政隆(まさたか)が、菊池十八外城(きくちじゅうはちとじょう)の一つである増永城(まふなが)を治めていたとされています。石碑が建っていて、書は徳富蘇峰といわれています。 ■菊池市七城町砂田地区

小話

博愛社～日本で初めてできた赤十字

西南戦争に際しておびただしい死傷者のうち、政府軍側の負傷者は軍病院に收容されて手当てをうけます。しかし、薩摩軍側の死傷者は山野に放置されたままで、その惨状は目を覆うばかりでした。元老院議員であった佐野常民(さのつねたみ)らは暴徒といえども天皇の赤子であることには変わりないと政府に請願書を提出し、この年政府軍兵士も薩摩軍兵士も平等に治療する博愛社を創設しました。これがのちの日本赤十字社です。

関連スポット

八勢眼鏡橋と石畳



安政2(1855)年に、御船の豪商であった林田能寛(はやしだよしひろ)が私財を投じて架橋。江戸時代から明治時代初期まで、日向往還として人馬の往来が多く見られました。西南戦争で政府軍に追い詰められた薩摩軍はこの眼鏡橋と石畳を通り、山都町へ向かいました。 ■御船町上野

通潤酒造



政府軍から逃れた薩摩軍が矢部(山都町)に入り、本営を置いた場所。西郷隆盛もここに入り、薩摩軍の主力がここに集結しました。西郷隆盛が宿泊したとされる母屋や庭がそのままも残っています。西郷はここから人吉へと移動します。 ■山都町浜町54

永国寺



矢部(山都町)で新戦略を練った薩摩軍は人吉へと入り、永国寺に本営が置かれました。境内には西郷本営跡記念碑が残っています。幽霊の掛け軸がある。幽霊寺としても有名です。 ■人吉市土手町5

文化苑(国宝青井阿蘇神社)



文化苑の中にある継承殿は、江戸中期の建物で、西南戦争で薩摩軍人吉隊の宿舎になりました。柱には薩摩軍による刀傷が残っています。 ※通常文化苑内は撮影禁止ですが、フォトラリーの期間のみ、拝観料(300円)お支払いの方は文化苑「外観」の撮影ができます。 ■人吉市上青井町118

武家蔵(武家屋敷)



相良藩の旧新宮家屋敷で、当時の姿のまま現存している武家屋敷。その中にある御飯屋は、西南戦争の折、西郷隆盛が宿舎として利用していたという歴史があります。屋敷の中には西郷ゆかりの品々が展示されています。

■人吉市土手町35

急ピッチで動き出した復興

復興は人づくりから 教育に熊本を託す

旧制第五高等学校が熊本に設立

明治19(1886)年に発布された「中学校令」によって全国に5つの中等学校が設置され、明治20(1887)年、熊本に第五高等学校が設置されました。そして、明治27(1894)年の「高等学校令公布」に伴い第五高等学校と改称。通称五高と呼ばれ熊本の明治の教育をリードしました。

まず東京(一高)、京都(三高)ができ、次いで仙台(二高)、金沢(四高)、熊本(五高)で、これらはナンバーズクールと呼ばれエリート達が帝大へ進むために通う超難関校でした。

第三代校長の嘉納治五郎は、講道館柔道の創始者であり、のちに東京師範学校で熊本出身の金栗四三(後に日本マラソンの父と呼ばれる人物)と出会い応援するなど、熊本にゆかりの深い校長でした。また嘉納校長の時に英語教師としてやってきたラフカディオ・ハーン(小泉八雲)は嘉納の影響を受け「柔術」というエッセイを書き欧米へ柔道のすばらしさを紹介しました。

ハーンの後にはやってきた英語教師の夏目金之助(漱石)は、熊本で多くの俳句を残し、またボート部の部長として江津湖へ頻繁に通ったそうです。

五高の卒業生では池田勇人(総理大臣)、佐藤栄作(総理大臣)、重光葵(外務大臣)、寺田寅彦(物理学者)など後の日本を代表する多数の人々が青春時代を熊本で過ごしました。

夫レ教育ハ
建國ノ基礎ニシテ
師弟ノ和熟ハ
育英ノ大本タリ



夏目漱石

関連スポット

五高記念館(熊本大学) ※現在は熊本地震の影響で休館中



明治22(1889)年に建てられた旧第五高等学校本館。熊本大学構内に五高記念館として公開されています。

■熊本市中央区黒髪2丁目40-1

明治の大ジャーナリスト徳富蘇峰が開いた大江義塾

徳富蘇峰は水俣の惣庄屋 徳富一敬(横井小楠の一番弟子)の長男で、明治から昭和期にかけて活躍した大ジャーナリストです。明治8(1875)年、熊本洋学校へ入学。明治9(1876)年には熊本で一大事件となった花岡山祈禱会に参加。洋学校閉鎖後、東京英学校を経て、新島襄を頼り同志社へ入学しました。明治15(1882)年に熊本市大江の自宅で父徳富一敬と私塾「大江義塾」を開きました。その門下生には宮崎滔天みやざきとうてんらがいました。当時蘇峰が書いた著書「将来之日本」は全国的に評価を受けました。また、翌、明治20(1887)年に月刊誌「国民之友」を主宰し、森鷗外の「舞姫」などを掲載し、明治の文壇をリードしました。明治23(1890)年には「国民新聞」を発刊するなど、明治の文壇やマスコミ界に大きな影響を与えました。

熊本市大江の自宅跡は「徳富記念園」内にあります。水俣市には徳富蘇峰・蘆花生家、蘇峰記念館があります。

関連スポット

徳富記念園

※記念館のみ開館



徳富兄弟関係の遺品や著書などを多数展示しています。庭には、蘇峰の師である新島襄がアメリカ土産に贈ったカタルパの種の2世・3世がそびえ、毎年5月中旬には上品な真白い花を咲かせます。 ■熊本市中央区大江4-10-33

徳富蘇峰・蘆花生家



徳富蘇峰・蘆花が生まれ幼少の一時期を過ごした旧徳富家の由緒ある建物。ここでは、お月見会や蘇峰記念碑めぐりなど、徳富兄弟にまつわる様々なイベントが開催されています。

■水俣市浜町2-6-5

水俣市立蘇峰記念館

蘇峰が27歳で発刊した国民新聞や、出世作であり明治のベストセラーとなった「将来之日本」等、徳富兄弟の蔵書や遺品など約2,000点が収蔵・公開されています。庭には、新島襄から送られたカタルパの木があります。 ■水俣市陣内1-1-1



関連スポット



小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)と熊本



「耳なし芳一」や「雪女」など名作を残した小泉八雲は、明治24(1891)年11月、第五高等中学校の英語教師として島根の松江中学校から赴任し、およそ3年間熊本で暮らしました。池田駅(現上熊本駅)で実際に起こった出来事を元にして書かれた「停車場にて」や旅行で三角西港にある浦島屋に立ち寄った際、浦島伝説の由来をめぐる論考と絡めた名作「夏の日の夢」を誕生させるなど、熊本で過ごした日々は小泉八雲の作品にもにじみ出ています。

小泉八雲熊本旧居



熊本に来て最初に住んだ家。日本の心をこよなく愛していた小泉八雲は家に神棚を設け、毎朝神棚に拍手を打って礼拝し、人力車で学校に通っていました。

■熊本市中央区安政町2-6

鼻かけ地藏



熊本大学裏手にある小峯墓地(おみねぼち)にひっそりと立っています。鼻がかけていることからそう呼ばれていて、五高教師だった八雲は、授業の合い間によくここを訪れたそうです。

■熊本市中央区黒髪4丁目

三角西港 浦島屋



八雲著「夏の日の夢」の舞台となった旅館です。平成5(1993)年に写真を元に復元されました。現在は、休憩スペースやイベント等の開催に使われています。

■宇城市三角町三角浦(三角西港公園内)

上熊本駅



夏目漱石が熊本にきた際に降り立った駅(当時は池田駅)。小泉八雲の「停車場にて」のお話は、この場所で起こった出来事です。近くには夏目漱石の銅像があります。

■熊本市西区上熊本2-18-1

経済の維新は鉄道に

熊本県内最古の駅がある「三角線」

日本の鉄道は明治5(1872)年に新橋と横浜間で営業を開始したことが始まりです。その後、横井小楠の弟子であった安場保和が福岡県令になり、九州鉄道が設立され、福岡から三角までの鉄道が計画されました。そして、明治22(1889)年に博多と久留米間が営業開始し、明治24(1891)年に熊本まで開業しました。

JR九州三角線は、宇土駅から三角駅までの鉄道路線です。当時は九州鉄道株式会社が敷設した私鉄として明治32(1899)年に開業しました。開業当時は門司～三角間が本線で、現在本線である宇土～八代間は支線としての位置づけでした。当初、三角線は筑後の石炭を三角西港まで運ぶために路線が作られる計画でしたが、難工事のため現在の三角東港口に変更され、石炭運搬の計画は頓挫したそうです。

三角線のほぼ中間地点にある網田駅は、明治32(1899)年開業当時の駅舎がそのまま残っており、県内最古の現役の駅舎として当時の様子がうかがえます。現在の三角線は観光列車も通り、天草への観光ルートとしても人気を集めています。

関連スポット

おうた えき
網田駅



熊本県内最古の駅舎。現在もJR九州三角線の駅として地域住民の通勤通学や日常生活に利用されている現役の駅舎です。

■宇土市下網田町2097-2

最大の難所「矢岳越え」により鹿児島本線開通

明治政府は九州縦貫鉄道の建設を決意します。八代～人吉～鹿児島間の内、特に人吉～鹿児島間は難所が多く、トンネルや橋、急勾配を克服するための日本初のループ線やスイッチバックなど難工事が計画され、国を挙げての大事業でした。財源不足などもあり、鹿児島側からの工事は明治32(1899)年に、八代側からは明治34(1901)年に工事が始まり、明治41(1908)年にやっと八代～人吉間が開通。そして、明治42(1909)年、門司(現門司港)から

よってもたらされた

鹿児島間が人吉経由で全通し九州の南北が鉄道で結ばれ、「鹿児島本線(現肥薩線)」が誕生しました。このことにより、青森県から鹿児島間の当時の日本縦貫鉄道が完通しました。

人吉から吉松の間にある大畑駅には、肥薩線工事で犠牲になった殉職者の慰霊碑が建てられています。当時の難工事に挑む過酷さがうかがえます。大畑駅には、当時のSL用の給水塔も残っています。蒸気機関車は、多量の石炭を消費し、ボイラーには常に大量の水を送り続けなければいけません。人吉駅から連続した急勾配を上り続けたD51型蒸気機関車に、次の勾配に備えるためにここ大畑駅で給水をしていました。また、この駅は洗顔場が設けられていました。列車が運行することで人も物資も大量に運ばれ、熊本の近代化が急ピッチで進んでいきました。



大畑駅スイッチバック

関連スポット

おこぼ えき
大畑駅



日本初で唯一のループ線の中にスイッチバックを併せ持つ駅。蒸気機関車のために設けられた信号所と給水所の役割を担った場所。給水塔や機関士達が顔や手を洗える洗顔場が残っています。

■人吉市大野町

人吉鉄道ミュージアム
MOZOCA(もぞか)ステーション868



鉄道博物館。館内にはミニトレインが走り、肥薩線の歴史が学べるスペースがあります。プラレールやレイルバイク等、鉄道好きにはたまらない子どもも大人も楽しめる施設です。

■人吉市中青井町343-14

大きく揺れ動く明治の熊本。そんな時代で強く生き抜いた魅力溢れる女性たちがいました。益城町杉堂にあった矢嶋家は惣庄屋の家で豪農でした。横井小楠との関係が深く、長男・直方をはしめ、矢嶋家姉妹の配偶者らも門下生として小楠に師事していました。当時の矢嶋家は子たくさんでそれも女子が多く、肥後藩政改革の中心人物、徳富一敬や横井小楠の妻となるなど、明治の熊本に足跡を遺した人物たちを側で支え、また自分たちも新しい女性の生き方を実践しました。

竹崎 順子(三女)

横井小楠の高弟である竹崎律次郎(茶堂)に嫁ぐ。その後、託麻郡本山村(現熊本市中央区本山町)に「日新堂」という私塾を開き後進の指導にあたる。明治22(1889)年「熊本女学校」を創設。多くの人材を世に送り出した。



※1

徳富 久子(四女)

横井小楠の高弟で明治3(1870)年の肥後藩政改革の中心人物、徳富一敬(淇水)に嫁ぐ。近代日本の言論人 徳富蘇峰、小説家 徳富蘆花兄弟の母として厳格な家庭教育を実践。女子教育のための学校設立案を提唱し、姉 順子の女子教育、妹 楯子の日本基督教婦人矯風会活動を積極的に支えた。



※2

横井つせ子(五女)

安政3(1856)年26歳の時、横井小楠に嫁ぎ、明治維新への大業参加を支えた。長男の時雄は同志社大学第3代総長となる。長女・みや子は同志社女学校設立に貢献し、同志社大学第8代総長海老名弾正の妻となる。



※3

矢嶋 楯子(六女)

明治19(1886)年、「日本基督教婦人矯風会」を設立し、初代会頭に就任。元老院への「一夫一婦制」の建白書提出をはじめとし、婦人参政権・廃娼・禁酒運動等に尽力した。大正10(1921)年、89歳の高齢でワシントン平和会議に出席し、その功績を讃えられハーディング米大統領より記念の花器を贈られる。



※4

関連スポット

四賢婦人記念館 ※閉館中

矢嶋家・四賢婦人の功績を発信する施設。平成28年熊本地震で被災して現在は閉館中です。平成31(2019)年4月開館に向けて工事が進められています。矢嶋家がかつて所在していた杉堂地区の「潮井自然公園」内へ建てられる予定です。



四賢婦人記念館イメージ図(益城町教育委員会)

急ピッチで動き出した復興

熊本の明治遺産

激動の時代を経て、大きく発展していく熊本。当時の建物や明治を偲ばせる遺産が県内各地に残っています。世界遺産にも登録されていて、全国的にも注目を集めています。

関連スポット

万田坑



荒尾市にある万田坑は、明治30(1897)年から35(1902)年にかけて作られた第一堅坑と、明治31(1898)年から41(1908)年にかけて作られた第二堅坑とからなる三池炭鉱の総力を挙げて整備された、国内最大規模の堅坑です。「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として世界文化遺産に登録されています。 ■荒尾市原万田200-2

三角西港



明治の三大築港のひとつであり、中でも当時のままの姿で現存する貴重な港です。明治20(1887)年に完成した三角西港は、全長756mの埠頭沿いには倉庫や洋風、和風の建物が並び、ヨーロッパを思わせる街並みが広がる近代的な港湾都市の様相でした。「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として世界文化遺産に登録されています。 ■宇城市三角町三角浦

崎津集落



「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産のひとつとして世界文化遺産に登録されています。集落の中に建つ「崎津教会」は、明治21(1888)年に建てられました。現在の建物は昭和9(1934)年、フランス人宣教師のハルブ神父のときに再建されたものです。「海の天主堂」とも呼ばれ、教会の中が畳敷きであることが特徴です。※教会は祈りの場です、マナーを守って見学してください。 ■天草市河浦町崎津

関連スポット～明治の文豪が遺した遺産～

夏目漱石第3旧居



夏目漱石が熊本で住んだ3番目の家。漱石はこの家から同僚の山川信次郎(やまかわしんじろう)とともに「草枕」の旅へ出かけました。かつては大江にありましたが、現在は水前寺に移築されています。 ■熊本市中央区水前寺公園21-16

夏目漱石内坪井旧居



漱石が5番目に住んだ家。漱石は熊本にいた4年3ヶ月の間に6回も転居しました。その中で最も長い1年8ヶ月をここで暮らしました。この家で長女筆子(ふでこ)が誕生しました。※閉館中、庭園のみ公開 ■熊本市中央区内坪井町4-22

草枕交流館



夏目漱石の小説「草枕」をはじめ、作品の背景となった前田家の建物や人々にまつわる展示がされていて、その繋がりを紹介する映像も見ることができます。 ■玉名市天水町小天735-1

前田家別邸



漱石が正月旅行で訪れ、ここで数日間過ごしました。「離れの六畳間」と「浴槽」が保存公開されています。「草枕」の舞台になりました。 ■玉名市天水町小天766-3

草千里ヶ浜



阿蘇五岳のひとつ、烏帽子岳の北麓に広がる大草原。多くの観光客で賑わいます。夏目漱石の小説「二百十日」の舞台は阿蘇で、漱石の実体験をもとに書かれた作品とされています。漱石は内牧温泉に宿泊し、阿蘇神社を参拝、阿蘇中岳登山を試みたそうですが、悪天候のため途中で断念したとされています。 ■阿蘇市・南阿蘇村

大観峰



阿蘇くじゅう国立公園にある、阿蘇五岳やカルデラが一望できる展望スポット。古くは「遠見ヶ鼻(とおみがはな)」と呼ばれていましたが、徳富蘇峰がここからの絶景に感動して、「大観峰」と名づけたといわれています。周囲には広大な草原が広がります。 ■阿蘇市山田

関連スポット



宮崎滔天(宮崎兄弟)

宮崎兄弟の一人宮崎滔天は革命家で、兄たちとともに、全アジアの独立解放と自由平等の実現を夢見て、全財産を投げうち、孫文(1866～1925 中国革命の指導者)らを支援し続けました。一度は革命支援に失敗しますが、その後浪曲師となって革命思想の普及に尽力しました。その時出版した自伝「三十三年の夢」は中国語にも訳され、革命家・孫文の名を日本と中国に知らしめることとなりました。それはやがて、1911年の辛亥革命の成功にも繋がりました。

宮崎兄弟の生家 / 宮崎兄弟資料館



宮崎兄弟たちが生まれ育った生家は今も当時の姿のまま残り、大切に保存されています。伝統的な日本家屋と、彼らがいた頃から植えられている植物が今も残る庭園を見学することができます。同じ敷地内には宮崎兄弟資料館があり、日本近代化という激動の時代や、理想の国を追い求めた宮崎兄弟の軌跡を学ぶことができます。 ■荒尾市荒尾949-1



関連スポット



北原白秋

明治から昭和前期まで活躍した歌人 北原白秋。その母の実家が南関町にあり、白秋はそこで生まれたとされています。南関町を第二のふるさととして愛していた白秋の歌碑が南関町に残っています。

大津山阿蘇神社



*健甕龍命(たけいわたつのみこと)を祀っている神社。境内には、白秋が南関訪問の際、大津山阿蘇神社で清遊した折によんだ歌の碑が建っています。「大津山ここのお宮の見わたしを族(うから)がものと我等すずむ」※阿蘇開拓の神 ■南関町大字関東958

下田温泉



明治40(1907)年、北原白秋をはじめ、与謝野鉄幹(よさのてつかん)ら、5人の青年たちは九州旅の様子を紀行文「五足の靴」で書いています。下田温泉には、「下田温泉五足の湯」と名づけられた足湯があり、近くには「五足の靴文学遊歩道」があります。 ■天草市天草町下田北1310-3

関連スポット～現代に遺る明治を偲ぶ～

八千代座



明治43(1910)年に旦那衆と呼ばれる山鹿の実業家たちによって建てられた芝居小屋。江戸時代の伝統的な芝居小屋の様式を今に伝えます。天井を鮮やかに彩る広告看板や真鍮製のシャンデリア、提灯など、明治から続くロマンを感じられます。 ■山鹿市山鹿1499

ゆめこぐら 夢小蔵(八千代座管理資料館)



明治20(1887)年に豊前街道沿いにあった洋品店の蔵として建築。平成4(1992)年に再生し、現在は八千代座に残る貴重な資料を展示する資料館となっています。

■山鹿市山鹿1499

菊池神社



明治3(1870)年創建。主神は南北朝の争乱時代、九州における南朝方の雄として活躍した菊池武時(たけとき)公・武重(たけしげ)公・武光(たけみつ)公の3代をはじめ、歴代当主を祀ります。 ■菊池市隈府1257

金波楼



明治43(1910)年創業。国の有形文化財に登録されている木造三層楼の純和風旅館です。600年来の歴史ある日奈久温泉にあります。

■八代市日奈久上西町336-3

シャルトル聖パウロ修道院記念館



八代白百合学園内に建つ木造洋風建築で、明治33(1900)年、八代において貧しい病人や孤児の救護にあたったスール(シスター)達の修道院として建設され、救護活動の拠点となりました。

■八代市通町10-8

郡築三番町樋門



明治期に八代郡役所によって行われた干拓事業で新地に設けられた樋門です。事業当初に建設された樋門としては唯一残存する貴重な土木構造物です。

■八代市郡築三番町

明治150年イベント情報

明治150年を記念して、熊本県内各地で明治時代にまつわるイベントが開催されます。

開催中!～2018年11月25日(日)

熊本城ミュージアムわくわく座・田原坂西南戦争資料館コラボ企画

「明治150年 熊本城と西南戦争」

資料やパネルの展示を通して、熊本城の籠城戦について学べます。

展示「籠城戦—熊本城攻略の一手」

■ 期間：2018年10月6日(土)～11月25日(日)

■ 場所：2階 熊本城ビューラウンジ

熊本城ミュージアムわくわく座

熊本市中央区二の丸1番1-1号 TEL096-288-5600

開館時間：9:00～17:30(入館は17:00まで)

料 金：入館料(大人300円、小・中学生100円)



2019年1月8日(火)～3月24日(日)

熊本県立美術館

「没後150年記念 横井小楠とその時代」

幕末から明治維新期の日本を代表する熊本出身の思想家・経世家である横井小楠の事績を、維新前夜の越前福井藩での活躍を中心に紹介します。

■ 期間：2019年1月8日(火)～3月24日(日)

■ 場所：細川コレクション展示室(別棟+本館二階展示室第1室)

熊本県立美術館

熊本市中央区二の丸2 TEL096-352-2111

開館時間：9:30～17:15(入館は16:45まで)

休 館 日：毎週月曜日(月曜祝日の場合は翌日)、年末年始

料 金：一般420円、大学生250円



「明治の熊本」関連スポットマップ



- 1 時習館跡(熊本城二の丸広場)
- 2 横井小楠と維新群像(高橋公園)
- 3 四時軒(横井小楠記念館)
- 4 小楠公園
- 5 豊後街道「内牧温泉」
- 6 湯の鶴温泉
- 7 北里柴三郎記念館
- 8 花岡山
- 9 新開大神宮
- 10 神風連資料館(桜山神社境内)
- 11 熊本市田原坂西南戦争資料館
- 12 熊本城
- 13 吉次峠
- 14 西郷南洲先生祖先発祥之地(増永城跡地)
- 15 八勢眼鏡橋と石畳
- 16 通潤酒造
- 17 永国寺
- 18 文化苑(国宝青井阿蘇神社)
- 19 武家蔵(武家屋敷)
- 20 五高記念館(熊本大学)
- 21 徳富記念園
- 22 徳富蘇峰・蘆花生家
- 23 水俣市立蘇峰記念館
- 24 小泉八雲熊本旧居
- 25 鼻かけ地蔵
- 26 三角西港 浦島屋
- 27 上熊本駅
- 28 網田駅
- 29 大畑駅
- 30 人吉鉄道ミュージアム MOZOCA(もぞか)ステーション868
- 31 万田坑
- 32 三角西港
- 33 崎津集落
- 34 夏目漱石第3旧居
- 35 夏目漱石内坪井旧居
- 36 草枕交流館
- 37 前田家別邸
- 38 草千里ヶ浜
- 39 大観峰
- 40 宮崎兄弟の生家・宮崎兄弟資料館
- 41 大津山阿蘇神社
- 42 下田温泉
- 43 八千代座
- 44 夢小蔵(八千代座管理資料館)
- 45 菊池神社
- 46 金波楼
- 47 シャトル聖パウロ修道院記念館
- 48 郡築三番町樋門

熊本の明治を巡って、写真を撮って、豪華賞品をゲットしよう!

熊本明治150年記念フォトラリー

ガイドブック内で紹介している、「明治の熊本」関連スポットの内、フォトスポットマークが付いているスポットの写真を撮って、応募してください。抽選で50名様にすてきなプレゼントをお送りします。



応募バ切り

2019年2月17日(日) ※WEB、インスタでの応募の場合は2月17日24:00まで、郵送の場合は当日消印有効

応募方法

●通常コース

①専用WEBページで応募

URL: <http://www.kumamoto-meiji-photo.com>にアクセスして、応募フォームから申し込み

②郵送にて応募

必要情報(住所、氏名、電話番号またはメールアドレス等連絡先、応募コース名、応募作品の撮影日、撮影場所)を明記して、下記宛先まで送ってください。

〒860-0051 熊本県熊本市西区二本木3丁目7-37

熊本明治150年記念フォトラリー運営事務局(株式会社マインド内)宛

公式サイト



Wチャンス!

●インスタコース 熊本明治150年記念フォトラリー公式アカウント(@kumamoto_meiji150)

インスタグラムのアカウントを取得して、熊本明治150年記念フォトラリーの公式アカウントをフォロー。『#熊本明治150年』をつけて投稿すると、抽選で100名様に明治150年オリジナルグッズをプレゼント!

応募条件

●通常コース フォトラリー対象スポットはガイドブック内の マークがついているスポットです

①全エリア制覇コース

対象スポット43か所のうち、6か所(熊本市エリア1か所、県央エリア1か所、県南エリア1か所、県北エリア1か所、阿蘇エリア1か所、天草エリア1か所)の計6枚の写真を撮影して応募。

②西南戦争ゆかりコース

下記のゆかりスポットの中から3か所選んで撮影して応募
(ゆかりスポット) 熊本城、高橋公園、熊本市田原坂西南戦争資料館、吉次峠、西郷南洲先生祖先発祥之地(増永城跡地)、八勢眼鏡橋と石畳、通潤酒造、永国寺、文化苑(国宝青井阿蘇神社)、武家蔵(武家屋敷)

③明治の産業コース

下記のゆかりスポットの中から3か所選んで撮影して応募
(ゆかりスポット) 上熊本駅、網田駅、大畑駅、人吉鉄道ミュージアムMOZOCA(もぞか)ステーション868、万田坑、三角西港

④明治の文豪コース

下記のゆかりスポットの中から3か所選んで撮影して応募
(ゆかりスポット) 湯の鶴温泉、徳富記念園、徳富蘇峰・蘆花生家、水俣市立蘇峰記念館、小泉八雲熊本旧居、鼻かけ地藏、三角西港、上熊本駅、夏目漱石第3旧居、夏目漱石内坪井旧居、草枕交流館、前田家別邸、草千里ヶ浜、大観峰、宮崎兄弟の生家/宮崎兄弟資料館、大津山阿蘇神社、下田温泉

⑤熊本の明治150年入門コース

対象スポット43か所の中からどこか1か所を撮影して応募

Wチャンス! ●インスタコース

対象スポット43か所のうち、どこか1か所の写真を撮影し、ハッシュタグ「#熊本明治150年」をつけて投稿してください

応募賞品

●通常コース

- ①全エリア制覇コース……………2万円相当の熊本の特産品セット 5名様
先着50名様にオリジナルエコバッグをもれなくプレゼント
- ②西南戦争ゆかりコース……………5千円相当の熊本の特産品セット 5名様
- ③明治の産業コース……………5千円相当の熊本の特産品セット 5名様
- ④明治の文豪コース……………5千円相当の熊本の特産品セット 5名様
- ⑤熊本の明治150年入門コース……………2千円相当の熊本の特産品セット 30名様

●インスタコース

抽選で100名様に明治150年オリジナルグッズをプレゼント

【規定】

- 応募作品は未発表のものに限ります。●応募者自身が撮影した写真に限ります。なお、加工は行わないでください。
- 指定されたスポットと判別できる写真を撮影し、お送りください。(風景・場所・モノ) ●法令や公序良俗に反する写真、またそのおそれのある写真は応募不可とします。●郵送で応募する場合、写真のプリントサイズはA4(297×210mm)とします。写真光沢紙に出力してください。●郵送でのご応募の場合、写真の裏面に撮影日と撮影スポットをご記入ください。

写真撮影について

- 写真撮影の際は、関係法令等遵守の上、地元の方々の迷惑にならないように注意し、また、自動車等周囲の安全に十分注意をお願いします。●写っている人が特定できる写真を撮影する場合は、本人の了解を得てください。●写真撮影に伴いトラブルが生じた場合は、各自の責任で対応をお願いします。●応募された写真・画像が著作権の侵害や肖像権の侵害など、法律上の問題が発生した場合は、応募者本人が対処し、主催者はその責任を一切負いません。

写真の送付について

- 応募に関する一切の費用は、応募者負担となります。●応募作品の著作権は作者に帰属しますが、使用权は主催者が有し、主催者は広報宣伝・プロモーションの目的で、テレビCMのほか、新聞、雑誌、インターネット、DVDなどの映像媒体、作品集などの各種印刷物、写真展など、多目的に使用することがあります。●提出写真は返却しませんが、あらかじめご了承ください。●応募に際しての個人情報、賞品発送等の関連の連絡を除き、本事業以外に使用することはありません。●後日、事務局から写真データの提供を依頼することがありますので、ご協力をお願いします。

● 監修・協力（敬称略・順不同）

「ジェーンズの会」事務局長 本田 憲之助

末吉・歴史文化研究所 末吉 駿一

青井阿蘇神社、荒尾市教育委員会、宇城市まちづくり観光課、永国寺、菊池市教育委員会、菊池神社、北里柴三郎記念館、北里柴三郎記念室、金波楼、玉東町教育委員会、草枕交流館、熊本市文化振興課、熊本城総合事務所、シャルトル聖パウロ修道女会八代修道院、新開大神宮、神風連資料館、通潤酒造株式会社、徳富蘇峰・蘆花生家、人吉鉄道ミュージアムMOZOCA（もぞか）ステーション868、武家蔵、益城町教育委員会、万田坑ステーション、水俣市立蘇峰記念館、御船町商工観光課、八代市文化振興課、山鹿市社会教育課、学校法人 開新学園 開新高等学校、熊本大学附属図書館、熊本YMCA、学校法人 女子学院、富重写真所

● 発行：熊本県企画課 TEL 096-333-2018

● 制作：株式会社マインド TEL 096-324-7600